

様式 3

議事録

全部記録 要点記録

1. 会議名	令和7年度 第1回 姫路市地域公共交通会議離島航路分科会
2. 開催日時	令和7年6月20日（金曜日） 午前11時00分～正午
3. 開催場所	姫路ポートセンタービル5階 503号室
4. 出席者名	出席委員 秋武正人、池田田鶴、井澤一利、大當伸子、岡田千美、垣本祥秀、桂和徳、喜多秀行、高山知久、中川幸一、畑野長利、松尾憲一、森谷論、藪内健吾(50音順 敬称略)
5. 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人 なし
6. 議題	【審議事項】 令和8年度姫路港～坊勢島航路 生活交通確保維持改善計画（案）について
7. 会議概要	
事務局	<p>只今より、「令和7年度第1回 姫路市地域公共交通会議離島航路分科会」を開催いたします。</p> <p>本分科会の開催には、「姫路市地域公共交通会議離島航路分科会規約」第7条第2項の規定により、委員総数の半数以上の出席が必要とされております。本日は、委員14名中、半数以上の14名の出席をいただいておりますので、本会議が成立していることをご報告させていただきます。また、会議は、本分科会規約第7条第5項の規定により、公開することとなっておりますので、ご了承いただきますようお願いいたします。</p> <p>なお、前回の委嘱期間が令和7年1月23日で終了しましたことを受けまして、このたび、皆様により委員として就任していただいております。引き続きの方もいらっしゃいますが、改めてご出席者の皆様を配席の順番にご紹介させていただきます。</p> <p>【委員就任紹介】</p> <p>本分科会規約第6条第2項及び第7条の規定に基づき、会議の進行につきまして、会長よろしく願いいたします。</p>

会長	<p>本日は、お忙しい中、本分科会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。会議次第に沿って、進行させていただきます。それでは、会議次第「2 審議事項」の「令和8年度姫路港～坊勢島航路 生活交通確保維持改善計画（案）について」を事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【事務局説明】</p>
会長	<p>只今の事務局からの説明につきまして、ご意見・ご質問等はございませんか。</p>
委員	<p>ご説明いただいた冊子の2ページのところに目標効果が書かれています。これの2段落目、3行目から4行目にかけて、「利用者数の減少が島民生活・島の魅力の衰退につながらない仕組み作り」と書かれているのは、どういうものを目指しているかが明確になっていいと思うのですが、その後段で余暇需要や交流人口の増加を図っていきますと書かれています。そうすると、利用者数の減少をなるべく食い止める、あるいは維持もしくは増加を目指すように見え、利用者数の減少が、前提条件になっているように見えてしまいます。そのため、ここでは利用者数の減少ではなく、島民人口の減少としていただき、利用者数の減少につながらないようないろいろな施策等のサービスを向上させるというのは大事なことだと思います。あるいは利用者数が減ったとしても、いろいろな試みがあり得るだろうと思いますので、ここは利用者数の減少ではなく島民人口の減少としていただいた方がいろいろな展望が広がっていいと思います。</p>
会長	<p>ただいまの意見につきまして事務局の方はいかがですか。</p>
事務局	<p>ご指摘を踏まえまして、利用者数の減少ではなく、島民人口の減少という形で文言を修正します。今後も人口減少の状況の中で、利用者の減少を最小限にする様々な取り組みを行い、引き続き、離島航路の維持確保に努めてまいります。</p>
会長	<p>それでは島民人口の減少に文言を修正し、それ以外の取り組みの方を進めていくということをお願いします。</p>
委員	<p>それならば、島民生活・島の魅力の衰退につながらない仕組み作りというのがここでの狙いだと思いますので、島民生活や島の魅力が衰退していな</p>

	<p>いか、あるいは改善されているかというのが、この計画のアウトプットの評価になると思います。そういう視点での記述があまり見られないので、次回以降、そういった点に留意し、目標と整合するよう近づけていただければと思います。</p>
会長	<p>それでは目標の設定評価という部分についてご意見をいただきましたので事務局はこれを参考に今後の資料作成をお願いいたします。他にございますか。</p>
委員	<p>島民の人口、利用者がかなり減ってきている状況で、現在、坊勢島で、輝観光が車やバイクのレンタルをやっておりますが、車の利用者の約90%は釣り客です。あと9%は仕事の方、観光客はほぼ1%です。バイクは50%が仕事の方、40%が釣りの方、10%が観光客です。免許を持ってない方がいらっしゃるのでレンタル自転車を坊勢輝汽船㈱でこれからやっていきたいと思ったのですが、いい案があれば提案をお願いしたいです。</p>
会長	<p>坊勢でも2次交通で今後レンタル自転車をやっていきたいということでございます。事務局でこの意見に対して何かございますか。</p>
事務局	<p>島民人口が減少している状況の中で、交流人口の増加という意味では、レンタル自転車等を導入することによって島の回遊性が向上し、利用者が増加することにつながるため、そういった取り組みは進めていただきたいと考えております。</p>
委員	<p>来島者の利便性向上の観点で取り組みを進めていただくのはいいことだと思うのですが、それを考える場の一つが離島航路分科会だと思います。先ほど航路事業者からこういうことをやる、島側でそれをどう受け止めてもらえるかという議論がありましたが、移動手段だけでなく飲食や観光施設も含めて考え、それらを航路が支えあるいは先導していかうまく回していくかという絵を描くのがこの離島航路分科会の仕事かと思います。補助航路だけで姫路市の離島航路が成り立っているわけではないですし、そういう意味では、この離島航路分科会は離島航路が支える島の活性化の分科会と言ってもいいと思います。ですので、補助航路の説明だけではなく、それ以外の航路がどうなっているのか、あるいはどうしようとしているのか、連携もあると思いますし、島内の2次交通やそれ以外の受け入れ体制等も含め、ここで話ができるようになるといいと思います。他にそういう場があ</p>

	<p>ればそれで結構ですが、ここでやることも必要ではないでしょうか。補助航路の話だけして終わるといつまでたっても航路から外に目が向かない感じがしますので、いかがなものかと個人的に感じております。皆さんはいかがでしょう。</p>
<p>会長</p>	<p>補助航路を維持していくということでは、計画を評価、審議いただいて、また次の評価に結びつけていくことが必要です。しかし、委員のご意見の通り補助航路に限らず、他の定期航路についても人口が減少している時代です。この場で経過や現状を説明していくべきかと考えております。</p>
<p>委員</p>	<p>レンタル自転車が観光振興といった面で必要かと思うのですが、一点ご注意いただきたいところがあります。航路損益計算書にレンタル自転車の経費を加味していいのかということです。これにつきましては、以前、レンタル自転車は、潮風で錆びてしまうので3年ぐらいで駄目になってしまうという話をお聞きしたことがありました。3年ぐらいで駄目になってしまうなら、初期投資したレンタル自転車についてその間に何人以上の利用があれば初期投資を回収し、利益を上げることができるのかといったところの具体的な計画を一度立てていただいた上でご相談いただければと思っております。</p> <p>6月16日の新聞で、家島島内の交通の利便性を高めようということで家島観光事業組合の方が送迎車両の実証実験というのを始めているとお聞きしています。これが家島島内だけなのか、坊勢にもそれを広げていくことができるのかなど、地元の方々とも連携が必要になってくると思いますので、情報があれば、この場で提供いただければありがたいです。委員の皆様でご存知の方はいらっしゃいますでしょうか。</p>
<p>会長</p>	<p>観光タクシーですが、6月14日土曜日から運行を開始したところがございます。家島と坊勢ですが、コミュニティバスを姫路市で委託しまして、宮区会と坊勢区会の方で運行をさせていただいております。ただ、観光客がよく来られる日曜や祝日にコミュニティバスが運行してないのは、あくまでコミュニティバスは島民が利用するという事で島民の足を担うべきものです。そこで観光事業組合がリードして観光タクシーの運行を開始したということです。当初、運行計画の立案の際に、姫路市も相談を受け、ひとまず家島でやってみて順調にいくようなら、坊勢にも広めていきたいと聞いております。また、運転手の確保がネックとなっていることも伺っております。引き続き動向を注視し、分科会で新たな取り組みということで紹介させ</p>

<p>委員</p>	<p>ていただきたいと考えております。他に観光タクシーについてご意見はございますか。</p> <p>電動のシニアカー、いわゆる電動車いすのラストワンマイル交通としての活用についてさまざまな場で提言をしているのですが、車いすタイプやバイクタイプなど、いろいろあります。テレビのコマーシャルに出てくることもあります。なんとなく高齢者や身体障害者の方向けのイメージを持ちがちです。しかし、少し視点を変えると、ラストワンマイルの交通手段として非常に優れたものです。もちろんある程度、安全に通れる通路が必要ですが、まずドライバーがいらず、自分で走らせることができる。思ったところにすぐ止められ、坂は安定してとても楽に登れますし、時速は6キロまでです。時速6キロとは、どれくらいかという、私が朝急いで駅に行くときでも大体時速5キロぐらいだと思いますので、若い人の早歩きより早く移動できます。時速6キロで常に走れるわけではないですが、例えば時速4キロであっても、ある程度の距離を走ることができます。そのようなことも含めて考えて、ドライバーに運んでもらうタイプの交通と自分で行動範囲を広げられるタイプの交通、いろいろ組み合わせるといいと思います。また、海陸の連携などは国土交通省でも非常に奨励されており、補助金もありますので、柔軟に考えていくとよいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>先ほど委員からのアドバイスで、航路損益計算書に記載する際はご留意いただきたいという意見や、レンタル自転車の台数についての質問もありましたが、その点に関してご意見はございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>家島では20台ぐらいレンタル自転車がありますが、すべて出払ってしまうと聞いているので、坊勢ではまず5台ぐらいからできたらと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>航路損益計算書への記載の方法につきましては、またご相談いただくよう、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>他に意見はございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>広報についての方法と、あとはいわゆる発信力、こういうことを取り組んだというのを島の中だけでやっても仕方がないので、観光客を誘致するにはどうやってPRをしていくのかということが非常に大事ななことかと思ひ</p>

	<p>ます。その部分につきまして一つの参考事例ということでご紹介させていただきます。ただければと思います。</p> <p>皆さんご存知の通り、この4月から「大阪関西万博」が開かれております。また、万博を契機に淡路島では「AWAJI 島博」というイベントが開催されています。神戸運輸監理部も万博に関するイベントを盛り立てるため、僅かながら予算を確保しました。そこで、兵庫県が取り組む“ひょうごフィールドパビリオン”という、兵庫県内各地に地方誘客するイベントがあり、神戸運輸監理部が中心となって今年度の取り組みとして海事観光動画を作らせていただいております。具体的なことは、昨年度に同じように制作した海事観光動画が神戸運輸監理部の SNS の方にアップしていますので、ご確認いただけたらと思います。</p> <p>家島地区につきましては、2020年頃に神戸運輸監理部が中心となって家島航路並びに坊勢航路の海事観光動画を作成し、SNS でアップしている状況です。当時は期間限定の企画切符「しま遊びきっぷ」を活用した動画ですが、一定年数が経ってきております。改めてこういったPRをしたいということがあれば、それを本協議会の場で皆さんと議論し、これらの発信につきましては、国や県、市でも全面的にバックアップしていけると思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。これは坊勢輝汽船(株)だけでなく、坊勢渡船(有)、高速いえしま(株)、(有)高福ライナーもありますので、また事務局も情報収集していただき、情報発信のやり方を参考にさせていただくようお願いいたします。他にご意見はございますでしょうか。</p>
委員	<p>損益計算とか航路補助の関係の話になってしまうのですが、まず令和8年度の損益が1000万ほど上乗せになっており、船員の増加によるものが要因かと思います。14ページの船員費について、現在、予備船員を含め11名体制で、これが足りないから1名増やすということですが、何人であれば適正な船員の数になるのかというところを教えてくださいたいと思います。</p>
委員	<p>今この11名体制というのは、小型船だけの体制で言っています。中型船のクイーンぼうぜを動かすようになれば、もう1人必要になります。スケジュールの中で突然故障が発生したときは、1人が通し勤務になり、無理な労働が発生するので、クイーンぼうぜを運航できる体制を作っておかなければならないというのが理由です。</p>

委員	<p>ありがとうございます。12名が適正な船員の数と理解したらよろしいですね。</p>
委員	<p>はい。</p>
委員	<p>12名が適正ということですが、新しく入る方は航海の免許だけをお持ちですか。事前に調べたのですが、機関の免許を持たれている方が足りない気がするのですが。</p>
委員	<p>機関も足りないですし、船長も足りないです。 新しく入る者は、これから機関長の免許を取っていかうと思っています。今、機関長の免許を持っている船員2人は船長と機関長の免許を持っており、船長として乗船すれば機関長が1人減るので、全体的に足りない感じになる。機関長として乗船すれば船長が1人減る。船長と機関長のどちらの免許も持っている人で、どちらか1つしか使えないので、免許の数はあるが、実際に現場で船に乗るようになれば人が1人減る形になる。だから船長も機関長も足りない状況です。</p>
委員	<p>今回の方は航海の免許だけで、今後は機関の免許を取るという前提でどちらも対応できるようにするというのでしょうか。</p>
委員	<p>はい。</p>
会長	<p>他にありませんでしょうか。</p>
委員	<p>先ほどのご指摘やその説明もそうですが、船員が良好な環境のもとで勤務できるよう、また、安全のために人数を揃える必要があると思いますが、この行政支援は全姫路市民の税から出ているわけです。そうすると、姫路市民の他の方は、それぞれまた別の事業を非常に厳しい状況でやっているところで、人が欲しいし、給料を上げたいけれど、補助がないからできないと思われる方もいらっしゃるかもしれません。申し上げたいことは、ここで検討したことが、こういう理由で税の使途として極めて妥当だということ、積極的に開示していく必要性です。申請書の中に全てそれを入れるというのが妥当かどうかは別ですが、市民の方に対して、例えば11人ではなくて12人が必要な理由や、中型船を運航するためにはどういう資格を持ってないといけないのか、その資格を持っている人を確保するためにはどういう</p>

	<p>対応が要るのかといったようなことも全部含めてこれが一番いい方法だと判断した理由をきちんと伝えていただければと思います。</p>
会長	<p>他にご意見はございますでしょうか。</p> <p>それではないようでございますので、お諮りさせていただきたいと思えます。「令和 8 年度姫路港～坊勢島航路生活交通確保維持改善計画（案）」につきまして原案通り承認とさせていただきますようお願いいたします。</p>
委員一同	<p>意義なし</p>
会長	<p>ありがとうございます。「異議なし」の声をいただきましたので、原案どおり、承認とさせていただきます。それでは会議次第「2 審議事項」の「2 その他」でございます。せっかくの機会でございますので、ご意見等ございましたらご発言の方お願いいたします。</p>
委員	<p>前回もお話したかと思うのですが、家島航路は高速いえしま(株)と(有)高福ライナーの2事業者ですが、令和 6 年の夏ぐらいから(有)高福ライナーの社長とは一本化しようということで 2 人の間で話しておりました。高速いえしま(株)は区民の財産を使って運航している航路であり、単独で決めるわけにもいきませんので、区民の皆さんにも統合の意向を 5 月末の区民総会で発表いたしました。先日、(有)高福ライナーの社長ともお会いし、令和 8 年 4 月 1 日を目指して新会社を設立して、定期航路を運航しようということを決めましたので、新会社への移行をスムーズにできるよう、国も市もご協力の程よろしくをお願いいたします。</p>
会長	<p>2 者の統合ということで令和 8 年 4 月 1 日からの運航を目指すということでした。市をはじめ、国・県も協力し、4 月 1 日の運航を順調に進められるよう後押しの方をよろしくをお願いいたします。</p> <p>他にございますでしょうか。</p> <p>それでは他にございませんので、次に会議次第の「3 その他」の「【報告事項】地域公共交通燃料価格高騰対策支援について」を事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【事務局説明】</p>
会長	<p>他に何かご意見等ございますか。</p>

委員	<p>先ほど家島航路の統合の話を紹介していただきましたが、今後は家島航路の社長として報告していただく方が、この分科会には望ましいのではないかと思います。また事務局の方でもご検討いただければと思います。</p>
会長	<p>次回以降、事務局の方で分科会の構成や資料の取りまとめ等配慮をよろしくお願いいたします。</p> <p>他にございませんでしょうか。</p> <p>以上で、本日の審議を終了し、事務局に進行をお返しします。</p>
事務局	<p>委員の皆様におかれましては、熱心にご審議をいただきまして、ありがとうございました。</p> <p>なお、本日の審議の結果に基づきまして、必要な手続等を進めて参りたいと存じます。</p> <p>それでは、以上をもちまして「令和7年度 第1回姫路市地域公共交通会議離島航路分科会」を終了させていただきます。</p> <p>委員の皆様のご協力を持ちまして、円滑に議事を進行することができました。ありがとうございました。</p>